



仁方中学校区小中一貫教育だより

仁方中学校・仁方小学校

令和7年1月発行

仁方中学校区では、「主体的に学び、思考力・判断力・表現力を身に付けた児童生徒の育成～生活をよりよくするために、自分の考えを深め、表現する授業づくり～」を研究主題とし、さまざまな取組を行っています。これまでにを行った今年度の取組をいくつか紹介します。

仁方中学校区での研究授業

仁方中学校区では、今年度は4回(小学校2回・中学校2回)の研究授業を含む、7回の合同研修会を行いました。それぞれの授業を参観する際、教員は次の視点をもっています。

- ① **【教科の本質】** 児童生徒は、教科等の「見方・考え方」を働かせながら、単元を通して深く思考している。
- ② **【思考力・判断力・表現力の育成】** 児童生徒は、教師の発問や学びの場を通して、思考を広げたり深めたりしている。
- ③ **【主体的に学ぶ態度の育成】** 児童生徒は、めあてを意識して進んで授業に参加している。
- ④ **【学習の振り返り】** 児童生徒は、振り返りにより、自己の学びを再構成・再認識している。

9月に行われた児玉教諭による中学2年2組の体育(バレーボール)の研究授業では②と③の視点、10月に行われた梶山教諭による中学3年1組の数学の研究授業では③と④の視点を中心に授業を参観しました。11月に行われた山中教諭による6年2組の総合的な学習の時間の研究授業では②と④、藤岡教諭による5年1組の家庭科の研究授業では、②と③の視点を持ち、授業を参観し、授業後に小学校と中学校の教員が協議を行いました。



協議では「日々の学習規律がきちんと身に付いていることと、学級のわきあいあいとしたムードが主体的な学びにつながっている。」「既習の関数を使って、実際の土砂の速度や到達時間を求めようと意欲的に取り組んでいた。求めた数値から、土石流が思ったより速く到達することを知り、避難の大切さを実感していた。」といった意見が出ました。

協議後には呉市教育委員会の指導主事から研究授業の気付きをお話いただきました。また本年度は、広島大学 人間社会科学部 教育学部の深谷達史准教授による指導講話を3回、広島大学 伊藤圭子名誉教授による指導講話を1回聞き、研究授業から得た学びをさらに深める機会を得ました。



思考を促す発問の工夫

本年度は新しい取組として、「児童生徒の思考を促す発問の工夫」を授業の中でどのように行ったのか写真を撮り、すべての教員で共有しています。普段は見ることのできない小学校・中学校の板書を写真で見ることによって、いろいろな工夫をされていることが分かり、各校教員の刺激になっています。

異年齢交流活動

中学1年生—小学2年生

11月6日(水)に、仁方小学校で中学1年生と小学2年生による絵本会を行いました。8グループに分かれて、中学生が小学生に向けて絵本の読み聞かせをしました。中学生は読み聞かせだけでなく、クイズの準備もしており、小学生を飽きさせない工夫をしていました。約8か月前までは小学生だった中学1年生ですが、しっかり成長した姿を小学2年生や小学校の先生方に見ていただくとともに、楽しい時間を与えてくれました。



☆3学期には6年生児童の中学進学後の不安感を減らすための取組を2つ予定しています。

『乗り入れ授業』(小学校で実施)(日にち未定)・・・6年生が中学校の先生の授業を受けます。

『オープンスクール』(2月10日(月)実施予定)・・・6年生が中学校を訪れて、中学2年生から学校生活の説明を聞いたり、部活動体験を行ったりします。